

和歌山県白浜町沿岸で採取された稀少種のホラガイ (腹足綱：フジツガイ科)

Record of a rare species *Charonia tritonis* (Linnaeus, 1758) (Gastropoda: Renellidae) from Shirahama, Wakayama Prefecture, central Honshu, Japan

久保田 信

〒 649-2211 西牟婁郡白浜町 459 京都大学フィールド科学教育研究センター 瀬戸臨海実験所 E-mail: kubota.shin.5e@kyoto-u.ac.jp

Shin KUBOTA

Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and Research Center, Kyoto University, Shirahama 459, Nishimuro, Wakayama 649-2211, Japan. E-mail: kubota.shin.5e@kyoto-u.ac.jp

要約 和歌山県沿岸における稀少種ホラガイ成貝の死殻 1 個体が和歌山県白浜町瀬戸漁港で 2011 年に発見されたので記録する。稀少種のこのホラガイの貝殻(殻長 29.5 cm)には、大型だが貝殻サイズには少し見合わないイシダタミヤドカリの雄(前甲長 22.0 mm)が入っていた。

キーワード：稀少種, 分布, ヤドカリ, 紀伊半島

久保田 信 2012. 和歌山県白浜町沿岸で採取された稀少種のホラガイ (腹足綱：フジツガイ科). *Molluscan Diversity*, 3(2): 95–96.

Abstract A shell of a rare species *Charonia tritonis* (Linnaeus, 1758) that harbored a hermit crab *Dardanus crassimanus* (H. Milne Edwards, 1836) was found from Seto harbor, Shirahama, Wakayama Prefecture, central Japan in 2011. It is described and photographed.

Keywords: rare species, distribution, hermit crab, Kii Peninsula

Kubota, S. 2012. Record of a rare species *Charonia tritonis* (Linnaeus, 1758) (Gastropoda: Renellidae) from Shirahama, Wakayama Prefecture, central Honshu, Japan. *Molluscan Diversity*, 3(2): 95–96.

Charonia tritonis (Linnaeus, 1758) ホラガイは南方系の二枚貝で、本州の紀伊半島以南および八丈島からインド・西太平洋のサンゴ礁海域に広く生息し、殻長 40 cm に達する(下池, 1997; 奥谷, 2000)。地理的分布の北限にあたる和歌山県沿岸では本種は稀少種で、これまで正式に記録されているのは 1971 年にすさみ江住, 1988 年と 2001 年にみなべ町堺の漁港のみである(大古場, 2004; 和歌山県立自然博物館, 2006)。本州最南端付近に位置する串本海中公園の展示水槽には比較的大型の数個体が飼育されているが、これらは串本町付近で採集されたものに違いない。今回、稀少種の本種が白浜町では初めて発見されたので報告する。

検討個体と考察

2011 年 5 月初旬、和歌山県西牟婁郡白浜町沿岸で発見された 1 個体の成貝(殻長 29.5 cm, 殻幅 14 cm: 久保田所蔵: Fig. 1)。本標本は白浜町の瀬戸漁港の岸壁そばの海底(33° 41' 16.9"N, 135° 20' 38.9"E)に捨てられていたものを採取した。その付近で漁をしていた時にかかったものである。本標本の体層はよく膨れ、螺層は



Figure 1. 和歌山県白浜町沿岸産のホラガイとその貝殻に入っていた大型のイシダタミヤドカリ.

Charonia tritonis and a large hermit crab *Dardanus crassimanus* found in a coast of Shirahama, Wakayama Prefecture, Japan. For measurements, see text.

丸くヤマドリ羽の様な模様がある。殻口は広く、外唇には2本ずつの縞がある。殻口内面は赤い。本標本は本種の最大級サイズには成長していないが、少なくとも数年は生き続けたと見られ、よく成長していた。この死殻の内面の光沢は失われていたものの付着生物がほとんどついておらず、死亡後長く日数が経過していないと推察される。本種は白浜町沿岸に多産する本種と同属別種の *C. sauliae* (Linnaeus, 1758) ボウシュウボラと違って、本県からは稀にしか見かけることはない。

本殻には採集時に *Dardanus crassimanus* (H. Milne Edwards, 1836) イシダタミヤドカリの雄（前甲長 shield length: 22.0 mm）が1個体入っていた。採集後1週間余りの期間、京都大学瀬戸臨海実験所の水槽でこのヤドカ리를流水飼育したが、全く動かず、与えたオキアミなどの餌も一度も食べないままに死亡した。このヤドカリは、本種としてはサイズの大きい成体であったが採集時に弱っていたらしく、本貝殻のサイズが大きすぎるのと併せて、全

く動けなかったと推察される。恐らくこのヤドカリはホラガイの採集時に既に中に入っていたもので、瀬戸漁港で宿換えをしたのではないと推察される。

謝辞

ヤドカ리를同定して下さいた駒井智幸博士（千葉県立中央博物館）に深謝する。

引用文献

- 大古場 正 2004. 和歌山県紀南地方から産出した熱帯系貝類. *かいななま*, **38**: 93–103.
- 奥谷喬司 2000. フジツガイ科. In 奥谷喬司 (編) *日本近海産貝類図鑑*, 285–292. 東海大学出版会, 東京.
- 下池和幸 1997. ホラガイの初期生活史. *みどりいし*, (8): 16–19.
- 和歌山県立自然博物館 2006. *池辺進一コレクション 貝類標本目録*. 海南市, 和歌山県.